

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 博物館環境整備事業費（長寿命化計画外）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 博物館 総務部管理調整係 電話番号：0575-28-3111(内250)

E-mail：c21804@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,970 千円 (前年度予算額： 1,584 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,584	0	0	0	0	0	0	0	1,584
要求額	3,970	0	0	0	0	0	0	0	3,970
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

岐阜県博物館は、令和8年に開館50年を迎え、建物・設備の老朽化が進行し、長期間使用した設備は機能が著しく低下している。

・温湿度計の購入

現在、5台の内2台の温湿度計が不調である。適切な資料の管理、保護のために温湿度管理は正確に行われるべきであり、そのためには温湿度計を新調する必要がある。

・収納ワゴンの整備

来館者がより見やすく、インパクトを与えるような展示のためには、ライティングは不可欠であるが、現状、照明器具を収納する箇所がなく直接床に置いている状態であり、器具の保管状況の改善が必要である。

・箱型パネルの更新

箱型パネルは展示室内を区切り多様なレイアウトを構成するために必要であるが、経年劣化によりゆがみが生じているためこのまま使用を続けると、パネルの転倒の恐れがあり、展示物や観覧者に接触するなどの事故が想定される。長年改修を行っていないことで、収蔵品の管理や展示構成の面で職員や来館者の安全面においても支障をきたしており、更新を行う必要がある。

・分光計測器の整備

LED照明の整備に合わせて、明るさの他に色彩も計測することが可能な計測器へ更新を行うことで展示環境の整備を行う。

・資料管理棚の更新

これまでに収集した資料は約143千件に達し、また毎年、自然史資料を中心に数千件増加しており、各収蔵庫の使用率は約9割に達している。具体的な対策を講じなければ、岐阜の魅力を高める資料の収集が困難な状況に直面し、これらが他地域へ流出する恐れがあることから、不要物の廃棄を行うとともに、資料棚を整備し適切な環境での保管に努める必要がある。またこの点については、令和3年度包括外部監査において、『岐阜県博物館における資料保管のため、展示履歴の低い収蔵物の売却等の処分のほか、整理方法の工夫など具体的な対策を検討すべきである。』との指摘を受けている。

(2) 事業内容

資料整理に関わる機器等の更新
収蔵環境の改善

(3) 県負担・補助率の考え方

県単独事業として実施

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
消耗品	1,400	収蔵庫整理等
委託料	600	不要物の廃棄
備品購入費	1,970	収蔵庫整理等
合計	3,970	

決定額の考え方

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業
☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
老朽設備の更新並びに、不要物品の廃棄及び収納棚の整備により収納スペースを確保し、貴重な収蔵品を適切に管理できる環境を整えることで、ふるさとの宝を増やし、博物館の魅力を高める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H30)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
博物館入館者数 (館外事業の利用 者含む)	249,375	170,656	200,000	200,000	200,000	85%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	0 査定のため未実施
	指標① 目標：200,000 実績：106,931 達成率：53.4 %
令和5年度	石工室等の排風機取替修繕によって、粉塵の飛散等による来館者や職員の健康被害の防止及び所蔵品の適切な管理を行うことができた。
	指標① 目標：200,000 実績：122,948 達成率：61.4 %
令和6年度	簡易ガス燻蒸設備を更新することができ、取扱者の安全を確保することができた。
	指標① 目標：200,000 実績：170,656 達成率：85 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 2	資料整理に関わる機器等の老朽化が進み、職員や来館者の安全の確保、収蔵品の適切な管理が容易ではなく、今後の作業効率の向上を図るためにも作業環境の設備を整えることが急務である。また収蔵スペースの使用率が上昇し、大規模な自然史資料の受け入れが困難な状況になりつつある。こうした資料は現在収集することが不可能なものが多く含まれており、時期を逃すと永久に入手することはできず、収蔵スペースの確保が急務である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	不要物品を廃棄することで、収蔵スペースを確保することが可能で、当面、資料の受け入れを継続することができる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 1	新たに収蔵した資料を展示などで活用することで、ふるさとの魅力を来館者に提供することができた。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 館内の収蔵スペースの確保には限界があるので、外部施設の利用や新規施設の建築など、長期的な視点での計画が必要である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 収蔵スペースを確保し、ふるさとの魅力を高めるための良質な資料を収集・展示し来館者等に発信することで、博物館の魅力の向上を図る必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	